

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	鶴ヶ峰もえぎ（単位1：もえぎ）			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 20日 ~ 2025年 12月 1日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数)	37
○従業者評価実施期間	2025年 11月 25日 ~ 2025年 12月 5日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 15日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性や保護者の気持ちに寄り添った支援ができる。活動プログラム内容が固定化しないよう提供できている。	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳やSNSやアプリなどでご連絡いただいた内容に、丁寧に返事をおこなうよう心がけている。 送迎時にお伝えしきれない内容についてはSNSを使用してご連絡を入れるようにしている。 子どもの変化等を日々職員間で共有できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への連絡は引き続き維持できるよう努める。 職員共有については不足している部分は最善の方法を検討し実施していく。
2	地域交流の機会が年2回必ず実施できている。	<ul style="list-style-type: none"> 定例会議までの各担当からの意見出し 活動をおこなっての子どもの様子の共有 子ども会議から出た意見の反映 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの「すき」や「興味がある」ことを日々共有し活動に反映できるよう努める。 おこなったことのないプログラムにも挑戦できるよう複数プランを用意して提供していく。
3		<ul style="list-style-type: none"> 春のさくらまつり、秋の収穫祭と2回とも地域の方含めて300名以上の来場者を迎えることができた。開催までの準備など職員の協力 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの来場者を迎えるにあたり、より良い運営方法を検討していく。例えば動線の確保や食事提供までの時間の短縮など。 きょうだい児や地域の学童クラブなどにも積極的にお声がけする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設内のクリンリネス維持	<ul style="list-style-type: none"> 敷地が広いが故に清掃が行き届いていない部分がある。 清掃オペレーションとしては、日常の決まった清掃箇所しかおこなう機会がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常清掃と定期清掃として2ヶ月に一度程度日頃手の届かない場所の清掃にも取り組む仕組みをつくる。 支援員で清掃できる箇所と、業者に依頼して清掃をおこなう箇所を見極め、適宜実施していく。 支援室フロアに関してはマットの張替えを検討する。
2	保護者向けの研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> 交流会に意識がいってしまい、研修会の希望があることが把握できていなかった。 研修開催において、外部との繋がりが希薄な部分があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに保護者向け研修会スケジュールも提示できるよう準備を進める。 交流会と研修会の企画をそれぞれおこなっていく。 内容によっては外部に依頼するなど外部とも連携をしていく。
3	バリアフリー化や子どもの個別ブースの提供	<ul style="list-style-type: none"> 手すりはあるものの、階段が数段あり、完全なバリアフリー化は図っていない。 園庭においても段差がある箇所があり、完全なバリアフリー化は図っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 設備投資の予算を立て、計画的に改善を図る。大掛かりな工事などが必要な場合は長期的に計画を立てていく。 子どもの個別ブースに関しては荷物を撤去し、子どもがいつでも利用できるよう整えていく。